

平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 神戸市教育委員会 】

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域 第 2 学年 (近現代の日本と世界)	
(2) 単元名または活動名 「 アジアの日本から世界の日本へ ―朝鮮の支配を争った日清戦争― 」	
(3) 対象生徒の実態 (1 人)	
	第 2 学年 国籍 (中国) 母語 (中国語) 在籍年数 (1 年 2 か月)
A	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の初級指導が終了し、日常会話はほぼできる。 読み書きに関しては、片仮名はまだ理解できていない。平仮名も一部理解できていない。 在籍学級での社会科の授業は、半分程度理解できている。 家庭では日本語話者がいないため、宿題等で日本語学習を進めることが困難な状況にある。学習習慣が身に付いていない影響か、学習がなかなか定着しない。教科書に出てくる頻度の高い熟語がなかなか覚えられないなど、日本語の力の伸びが低い。
(4) 目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> 日清・日露戦争を通じて日本の国際的地位が向上したが、日本の東アジアでの帝国主義の動きも活発化したことを捉えることができる。 帝国主義とはどのような動きかを理解できる。 日清戦争の原因と結果を、朝鮮の支配という観点から捉えることができる。 下関条約の内容を理解できる。 	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> 教科書の読めない漢字を読むことができる。 歴史用語が日本語で読むことができる。(書くことができる。) 提示した絵とともに日清戦争の内容がわかる。 日本と中国の歴史観の違いに気付く。 	

2 学習活動

指導者（教科担任），指導補助者（なし）		
全体の時間数（1時間）		
学習活動の状況 指導内容	活動 方法	有効だった指導等（◇学習活動への参加をうながす支援） （◆日本語の理解や表現をうながす支援）
① 【復習】 いままで どの時代のことを 学習していたかを つかむ。 《年表や資料で確認す る》	取り 出し	◇発問「どの時代を学習していたか覚えていますか。」 ◇教科書の年表で明治時代を示し，どこを学習していたか を確認させる。（大日本帝国憲法ができ，帝国議会が開か れた辺りを押さえさせる。） ◇教科書（P166～167上）の絵を見せて，確認させる。
② 【本時の要点】 今 日は日清戦争につ いて学ぶことをつ かむ。		◆フラッシュカードで字を確認させ，声に出して読ませる。 ◇発問「中国の学校で習いましたか。」黒板に『甲午戦争』 （日清戦争の中国語）と書き，習ったかどうか確認させ る。 （◇もし習っていたら，その内容を発表させる。） ◇なぜ，戦争が起きたのかを考えさせる。
③ 帝国主義とはどの ような動きかをつ かむ。 《教科書音読→語句理 解→内容理解》		◆教科書（P. 170の1～7行）を音読させる。読めない漢字 にはふりがなを書かせる。 ◇内容を易しい日本語で解説し，理解させる。
④ 日清戦争が起きた 過程をつかむ。 《教科書音読→語句理 解→内容理解》		◆重要語句の読みをフラッシュカードで練習させ，ワーク シートに書かせる。 ◇朝鮮での内戦（甲午農民戦争）を簡単に説明し，理解さ せる。
⑤ 戦争の結果どのよ うなことになった かをつかむ。 《教科書音読→語句理 解→内容理解》 《重要語句記述》		◆教科書（P. 171の1～8行）を音読する。読めない漢字に はふりがなを書かせる。 ◇内容を易しい日本語で解説し，理解させる。
⑥ 【本時の復習】。		◆教科書（P. 171の9～13行）を音読させる。読めない漢字 にはふりがなを書かせる。 ◇内容を易しい日本語で解説し，理解させる。 （特に下関条約の内容を整理して伝え，わからせる。） ◆重要語句の読みをフラッシュカードで練習させる。 ◆ワークシートの後半部分を書かせる。 ◆（発展）フラッシュカードで今日の重要語句の読みを練 習させる。

3 成果

① 対象生徒

- ・重要な歴史用語を読むことはある程度できた。ただし、定着のためには今後何回も練習が必要である。
- ・「帝国主義」の意味、「日清戦争」の経緯、「下関条約」の内容については理解できた。次の授業時に再点検したが、ほぼ理解できていることが確認できた。

② 有効だった指導方法

- ・なるべく易しい表現に変えること、ていねいにゆっくり話すこと、短文を活用することが大原則であることが今回も確認できた。
- ・フラッシュカードを使った指導は、重要語句を繰り返し音読練習することができるので有効である。地名の登場するものには地図を添付、重要な歴史用語には年号を書き添えた。
- ・発問に口頭で答えさせる活動は、日本語表現をつかませるために有効であり、必要でもあったことが確認できた。
- ・年表で時代を確認する作業は、目で見て時代を確かめることができ有効であることが確認できた。何度も見させることで年表の見方が早くなり、慣れてきていると感じられた。歴史学習において、年表の活用は必要かつ有効な作業であることがわかった。

4 課題

- ワークシートを今回は在籍学級のものとは違う独自のものを使用した。JSLの授業に合わせて作ったので、使いやすく授業は進めやすかった。しかし、在籍学級と同じことを勉強させないと、在籍学級に戻った時に生徒が戸惑うことにもなる。両方のワークシートをさせることが一番いいとは思いますが、時間的に厳しい場合も多い。独自のワークシート使用は一長一短あり、その生徒の日本語レベルにより、今後使い分けが必要である。
- ワークシートに出てくるキーワードを何度も読み間違えたこともあり、ワークシートに読みがなを書かせるように指導していく必要がある。
- キーワードを暗記させるだけでなく、その語句を日本語で説明できるように再生させることも必要である。そのためには、語句だけを覚えさせるのではなく、文に彩色して言わせて覚えさせることが有効ではないかと参観者から指摘を受けた。確かに、わからせる段階から、表現できる段階へ進めるような授業の展開が大きな課題である。
- 「易しく話す」→「理解させる」→「書くことで定着させる」という流れをつくるのが有効な指導ではあるが、さらに、易しい言葉で理解させるだけでなく、教科書の表現に戻すことが重要になる。それができていないと内容理解ができていても試験では良い結果につながらない。
- 今回の単元は生徒にとって難解な文字が多かったので、教科書の音読指導を迷いながら実施した。しかし、自分で音声化し聞き取ることは、在籍学級での教師の話を理解する上で助けになるとの指摘を日本語教師から受けた。